

## 企画展「名古屋のセンパイ！ 大正・昭和編」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月10日(水)から5月31日(火)までの間、企画展「名古屋のセンパイ！ 大正・昭和編」を開催しました。これは、本学全学同窓会による大学支援事業の助成金により収集した「名古屋大学の先輩」コレクションを展示公開するものです。

今回の展示は、大正・昭和時代、愛知県立医学専門学校・



展示会の様子

愛知病院から、旧制第八高等学校、そして名古屋帝国大学までの本学の前身校に在学、在職した著名人に関連する図書、文書、写真、絵葉書、地図等の史料を明治編に続いて展示公開しました。

郁 達夫の『沈淪』は、八高時代の自伝的小説で、当時の中国人留学生の孤独と性を描き、中国の近代文学で性の問題を真正面から取り上げた最初の商品として評価されています。

県立愛知医科大学の泌尿器科学教授太田正雄は、詩人木下杢太郎としても知られています。『支那南北記』は在職中に刊行された紀行文です。「勤勉八高」、「教練八高」と呼ばれる独自の校風を確立した初代校長大島義脩の絵葉書、1945年3月の空襲により建物を焼失した名古屋帝国大学が一時期借用していた愛知県昭和塾堂の小冊子と絵葉書など、多彩な資料は多くの来館者の関心を集めました。

また、会期中の3月15日(火)には、高橋 昭本学名誉教授を招き「愛知医学校長 後藤新平」と題する特別講演会を開催しました。衛生の道を拓き、雄大な先駆的視野に立って辣腕をふるった後藤新平の名古屋時代を中心とする講演は、市民ら60名の知的好奇心を大いに刺激しました。

## ICCAE 第2回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター (ICCAE) は、6月5日(日)、IB 電子情報館011講義室において、第57回名大祭研究公開セミナーを兼ねた2016年度第2回オープンセミナーを開催しました。今回のセミナーでは、ICCAEの元研究員で、現在、信州大学農学部国際農学教育研究センターの副センター長を務める浜野 充講師が「開発途上国



第2回オープンセミナーで講演する浜野講師

の農村における課題解決を目指した実践的研究－カンボジアの米蒸留酒の品質向上－」と題する講演を行いました。浜野講師は、10年以上にわたりカンボジアにおける国際協力と研究活動に取り組んできた経験に基づき、国際協力の実務と課題解決を導くアクションリサーチ手法について、一般の来場者にも分かりやすく解説を行いました。カンボジアの農村で伝統的に営まれている米蒸留酒造では、酒造工程、使用原材料などに問題があり、酒の品質が低いと薄利で赤字経営に陥る農家が多く存在します。講演では、これらの課題を抱える人々と共に経営・技術の課題の要因を見出し、改善の実践を繰り返すことで、課題解決を導いてきた実践的研究の実例が紹介されました。また、大学の国際化やグローバル人材の育成についても、外国人選手と日本人選手の相乗効果で活躍したラグビー日本代表チームの例も交えて、多様な人材が集まることにより活動生産性が高まることを示しました。講演後には、国際協力やカンボジアの農業と開発に関心を持つ多数の参加者との間で活発な質疑応答が行われ、盛況なセミナーとなりました。